

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

December 2019

December						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◆伊良湖岬

所在地：田原市伊良湖町

交通：豊鉄バス「伊良湖岬」停 南西 約 1km

渥美半島の先端、伊良湖岬は、「日本の灯台 50 選」に選ばれる伊良湖岬灯台をシンボルに、西には三島由紀夫の小説『潮騒』の舞台となった神島を経て遠く志摩半島を望み、東には静岡県浜名湖まで片浜十三里の砂浜が続く、風光明媚な場所です。周辺には、波によって浸食され真ん中が洞穴になった日出の石門（裏面参照）、「日本の渚百選」「日本の道 100 選」「日本の音風景 100 選」「日本の白砂青松 100 選」に選定され、島崎藤村の詩『名も知らぬ 遠き島より流れよる 椰子の実ひとつ』の舞台ともなった恋路ヶ浜など、観光スポットが数多く存在しています。



この伊良湖岬で、過去に 1,000 年周期で発生してきた巨大な地震による大津波の可能性を示す津波石や、津波による堆積物が発見されています。この 1,000 年周期の巨大な地震は、約 100 ～ 150 年周期で繰り返すとされている南海トラフ地震を大きく凌ぐ超巨大地震と考えられるもので、東日本大震災後に、最大クラスの地震として被害想定が行われている規模の地震に相当するものです。

津波石は、周囲の地質と異なるチャートと呼ばれる種類の巨大な石で、灯台周辺の標高 3 ～ 7m の場所に数十個発見されています。東日本大震災級の巨大な津波でなければ動かないような推定 150 トン（普通乗用車 1 台で 1 ～ 2 トン）を超える石が、過去の複数回の津波で、沖合 700m ほどの場所から運ばれたものと考えられています。



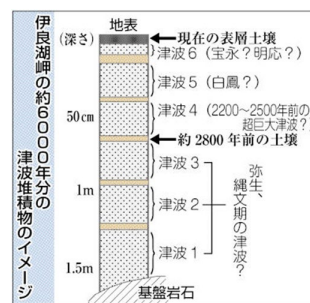
ン）を超える石が、過去の複数回の津波で、沖合 700m ほどの場所から運ばれたものと考えられています。

津波堆積物は、津波石のある灯台付近から東に約 2km ほど、恋路ヶ浜の海拔約 8m の緩斜面を調査したもので、約 6,000 年分の地層から津波堆積物が 6 層見つかっています。土壌の年代を放射性炭素年代測定によって調査した結果、最も地表に近い層が、宝永 4（1707）年宝永地震または明応 7（1498）年明応地震による津波のものであるとされ、順に天武天皇 13（684）年の白鳳地震、それに先立って約 1,000 年周期で、2,200 年～ 2,500 年前の地震、弥生期や縄文期の地震による津波のものであるとされています。

これまで西日本の研究者によって、南海トラフにおける巨大津波の存在が指摘されていましたが、津波堆積物の調査・研究が不足していた伊勢志摩～渥美半島沿岸において、こうした手がかりが発見されたことで、過去に南海トラフで発生した巨大津波像に、より具体的に迫ることができるようになるかも知れません。



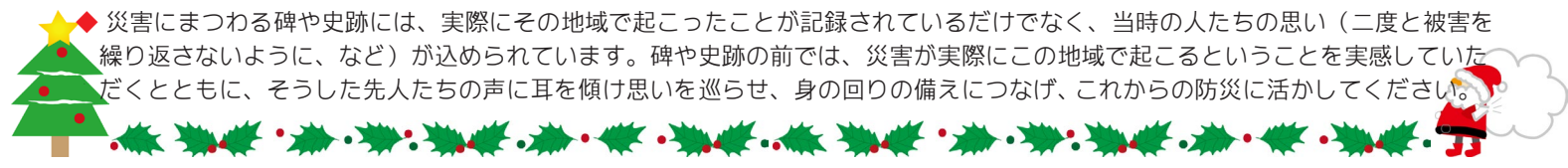
伊良湖岬の津波石
（平川一臣 北海道大学名誉教授提供）



津波堆積物のイメージ
（静岡新聞 HP より）



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆伊良湖岬の周辺には…

● 常光寺

所在地：田原市堀切町

交通：豊鉄バス「堀切」停 西 約 700m



宝永 4(1707) 年宝永地震、嘉永 7(1854) 年安政東海・南海地震に関する史料など、貴重な中世史料を所蔵しているお寺です。嘉永 7 年の地震の際に、写真の石垣まで津波が押し寄せたといわれています。



● 若宮八幡社

所在地：田原市赤羽根町

交通：豊鉄バス「赤羽根港」停 東 約 300m

元禄 16 (1703) 年の津波で移転し、その後、宝暦 4(1754) 年に現在地に移転したとされています（宝暦 4 年の移転理由は不明）。この場所には、嘉永 7 年安政東海・南海地震、昭和 19(1944) 年昭和東南海地震の際に津波が来たとされています。



● かいがらぼた

所在地：田原市堀切、日出 交通：豊鉄バス「堀切海岸」停 すぐ

安政東海地震で大きな被害を受けた後、日出や堀切の人々は津波の浸水を防ぐため、海岸に堤防を築くことを考え、土砂と一緒に貝殻を積み上げ、「かいがらぼた」と呼ばれるぼた山を築き上げました。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

★ ごせんだらまつり

ごせんだらまつりは、豊漁や無病息災などを祈って、大晦日から元日の早朝にかけて伊良湖神社の境内で行われる火祭りです。「せんだら」は、サンスクリット語で「南方印度(天竺)の賤民」を意味するとされ、海洋民族の原始的な儀式がルーツといわれています。

大晦日の夕方から、はっぴ・はちまき姿の子どもたちが、高張提灯を先頭に列をなして村中を練り歩き始め、神社へなだれ込みます。クライマックス



Aichi Now HP より

は、御神火を囲んで男衆によって行われる神事で、裸の男衆が松明を手に神社の境内に駆け上がり、山積みされた焚き火に火を移すと、たちまち御神火が燃え上がり、夜空に火の粉を散らします。参拝客や見学者はこの火の粉を浴び、新年の平安を祈ります。

あいちの農産物

セルリーは、特有の強い香りとぱりとした歯ざわりが特徴の野菜です。



愛知県園芸農産課 HP より

加熱しても香りが薄れることはなく、肉のおいしさを消して食欲を増進させる効果があり、さっぱりした味とさわやかな歯ざわりが人気です。白くてひび割れがなく、外側から内側へきれいな丸みのあるものおいしいセルリーです。

県内の主な産地は田原市、豊橋市です。

● ブレイクタイム ●

♪ 日出の石門

日出の石門は、太平洋の荒波に削られ、真ん中が洞穴となった奇岩で、伊良湖岬のシンボルのひとつです。約 2 億年前に南方の海底で、放散虫の殻などの珪酸分が沈殿してできた堆積岩が、地殻変動で隆起し、太平洋プレートの移動とともに運ばれてきたと考えられています。

西に志摩半島を望み、東には片浜十三里の白い砂浜が続く石門からの風景は雄大です。毎年 10 月と 2 月には、石門の穴から朝日を望むことができ、写真家たちが三脚を片手に撮影に訪れます。



Aichi Now HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 令和元年 12 月)

